

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 17 日

評価対象事業		評価者	市街地整備課長 若林 篤		
まち-02	実施事業	大船駅周辺整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	市街地整備課（駅周辺整備課）
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	市街地整備	施策の方針	市街地整備の推進	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	「大船駅周辺地区都市(まち)づくり基本構想」に基づいて、大船橋周辺、鎌倉芸術館周辺、大船駅南部などの各地区において、都市基盤施設や都市環境の整備を推進するため。
効果	「大船駅周辺地区都市(まち)づくり基本構想」に定めた地区の将来像の実現を図る。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大船橋周辺、鎌倉芸術館周辺、大船駅南部などの各地区のまちづくり基本方針等に基づき指導や助言等を行うとともに、必要に応じて支援を行った。</li> <li>・「砂押川桜保全再生計画」に基づく、住民主体の保全再生活動の支援を行った。</li> <li>・大船駅東口第2地区市街地再開発事業区域内の未接続箇所への下水道管の整備に向けた検討を進めた。</li> </ul>
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		データ区分	02年度(2019年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	176,608人	83,058世帯		・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	14,244	221		当初予算(千円)	788		
	国県支出金				国県支出金			
	地方債				地方債			
	その他				その他	4		
	一般財源	14,244	221		一般財源	784		
	人員配置数	1.5		1.6		人員配置数	1.4	
事業経費運営	人件費(千円)	11,346	12,850		人件費(千円)	12,354		
	総事業費(千円)	25,590	13,071		総事業費(千円)	13,142		
	市民1人当りの経費(円)	145	74		市民1人当りの経費(円)	74		
	対象者1人当りの経費(円)				対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない	
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない	
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある	
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	3. 廃止・休止による影響は大きくある	
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である	
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している	
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
協 働	協働実施済の場合のパートナー	地区ごとのまちづくり協議会 砂押川プロムナード桜愛護会など	
	事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	横浜市大船駅北第二地区では、平成29年3月から再開発事業の工事に着手している状況であり、鎌倉市大船駅東口では、再開発事業の実施時期を延伸することとしたが、再開発事業と切り離し、事業区域内の環境整備を実施する必要があるため。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	・大船駅周辺地区都市(まち)づくり基本計画(案)に基づき、各地区で定めたまちづくり方針等に沿って一定のまちづくりは進捗してきており、各地区の計画は策定から約20年が経過している中で、開発やまちづくりを所管する関連部署には周知され、各地区のゾーンごとに開発の誘導や指導が行われてきており、定着したものとなっているものの、今後の大規模開発によっては方針の一部見直しを視野に入れる必要があることから、有効性を2とした。 ・方針等の見直しを行う場合には市民の参画・協力が不可欠であるとともに、一定の期間と費用が必要である。当面は、これまでの方針等に従って、引続き誘導や指導を行っていくものの、今後、市民参画によりまちづくり方針等の見直しを進めていく場合には、現在の各地区のまちづくり協議会の廃止・統合や新たな枠組みの設定を視野に入れた検討もする必要がある。 ・本市の大船駅東口第2地区市街地再開発事業の実施時期は延伸しているが、再開発事業と切り離し、事業区域内の環境整備を実施する必要があるため、予算規模の方向性をAとした。		

<p>令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題(前年度未解決の事項を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大船駅笠間口前の旧財務省用地の整備・活用について、横浜市側の北第二地区市街地再開発事業が令和3年度に完了する予定の中、横浜市側の整備・活用と連携した形の活用に向けて、検討及び調整を進めていく。</li> <li>横浜市側の大船駅北第二地区市街地再開発事業や県道横断デッキとの連続性及び一体性並びに大船駅東口の回遊性の確保を進めていく必要があるため、三日月街区の一部用地の取得等に向けて、権利者との協議・交渉を行う。</li> <li>再開発事業と切り離して進められる事業区域内の環境整備として、区域内の下水道管未整備箇所への暫定的な下水道管整備の実施を目指す。</li> </ul>	
<p>課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大船駅笠間口前の旧財務省用地の整備・活用について、横浜市及び北第二地区市街地再開発組合と協議、調整を進めた。</li> <li>三日月街区の一部用地の権利者に対し、市として将来的に取得の意思があることを伝え、協議・交渉を行った。</li> <li>下水道未整備箇所への暫定的な下水道管整備の実施を目指し、下水道管理者と実施に向けた庁内調整を行った。</li> <li>大船のまちづくりについて話し合う場を設置して、大船のまちの活気や賑わいの創出に向けて 検討に着手するとともに鎌倉市制80周年記念イベントの共催を行った。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
<p>未解決の課題、新たな課題とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大船駅笠間口前の旧財務省用地の整備・活用について、横浜市側の北第二地区市街地再開発事業が令和3年度に完了する予定の中、横浜市側の整備・活用と連携した形の活用に向けて、検討及び調整を進めていく。</li> <li>横浜市側の大船駅北第二地区市街地再開発事業や県道横断デッキとの連続性及び一体性並びに大船駅東口の回遊性の確保を進めていく必要があるため、三日月街区の一部用地の取得等に向けて、権利者との協議・交渉を行う。</li> <li>下水道管未整備箇所への暫定的な下水道管整備の令和2年度の実施を目指し、庁内調整を行ったが、試掘調査等を経た実施設計により積算した整備工事費が高額となったことから、令和2年度の整備実施を見送っている。</li> </ul>	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	市域をまたぐまちづくりに係る協議会設置の有無									
団体名	鎌倉市	横浜市	藤沢市	平塚市	寒川町					
他市実績	有	有	有	有	有					

<p>当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方</p>	<p>大船駅は横浜市及び鎌倉市の市境に位置することから、当該事業においては神奈川県・横浜市・鎌倉市で構成する大船駅周辺地区整備連絡協議会を設置し、まちづくりに係る調整等を行っている。他市においても同様に市域をまたぐまちづくりに取り組んでいることから、本市においても継続したい。</p>
-----------------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	再開発事業区域内の環境整備(下水道管の整備等)の進捗度						単位	%	指標の傾向	⇒	備考
<p>再開発事業の実施を延伸していることから、市民要望のある下水道管の整備工事を実施することとしたため。</p>	当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	<p>H29:整備方針の確定 H30:実施設計の実施 R02:整備工事の実施</p>		
	目標値	-	-	-	25.0	50.0	50.0				
	実績値	-	-	-	25.0	50.0	50.0				
達成率	-	-	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				

<p>当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方</p>	<p>平成30年度に当初の目標どおり実施設計を行い、試掘調査等の結果を踏まえ、整備工事費を算出した。令和元年度に更なる精査を行い、詳細設計を実施したところ、整備工事費が高額となったことから、令和2年度の整備工事の実施を見送った。</p>
------------------------------	--